

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	消防対策室
施策	8	安全・安心な暮らしの確保	評価 責任者	中野 聡範 内線 698-2550
小施策	8-3	消防・救急の充実	評価 シート 作成者	藤原 智之 内線 698-2551

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・複雑多様化, また高齢化が進む現代社会において, 火災をはじめとする各種災害に迅速かつ的確に対応し, 市民の生命, 身体及び財産を守るため, 消防機能と消防体制の充実・強化を図る必要がある。 ・火災から市民の生命を守るため, 住宅防火対策の啓発や事業所の防火管理体制の徹底などにより, 防火意識の高揚を図る必要がある。 ・地域に精通し, 大きな防災の力として活躍する消防団員が, 年々高齢化や減少傾向にあることから, 地域や関係団体と連携しながら, 団員の確保を図る必要がある。		火災の発生を防ぐため, 市民の防火意識の向上を図るとともに, 常備消防及び消防団の消防力を充実させる。また, 救命率向上のため, 救急救助体制の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 消防団 市域		応急手当の正しい知識と技術が普及される。 火災に迅速に対応できる。 火災が少なくなる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析	
指標① 消防団員の充足率	%	↗	当初値 (H25) 76.7   R1目標値 79.0   R6目標値 81.0			<b>評価を踏まえた取組の方向性</b> ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討  ★ 新採用職員等消防団体験入団の実施を継続する。 ★ 消防団への入団促進のため, 消防団幹部等を通じた地域への呼びかけを継続する。 ★ 消防団装備の計画的な配備の実施を継続する。 ★ いわて消防団応援の店登録事業店舗数を増加させるため, 周知宣伝の実施を継続する。 ★ 盛岡市学生消防団活動認証制度が活用されるよう, 周知宣伝の実施を継続する。 ★ 消防団の消防防災活動に必要な装備について, 「消防団装備計画」に従って計画的に配備する。
			・平成27年度から始めた本市職員の「新採用職員等消防団体験入団」制度を今年度も継続して実施し, 同制度を経て消防団員となっている本市職員が初年度より通算で27人となった。 ・消防団幹部等を通じた地域への呼びかけ等により, 新規に35人が入団した。 ・消防団装備の充実を図り, 消防団員が活動しやすい環境を整えた。 ・平成29年12月から県が始めた消防団員を優遇する「いわて消防団応援の店登録事業」に積極的に協力し, 本市の登録店舗数が30店舗となった。 ・「盛岡市学生消防団活動認証制度」を施行した。	⇒	・「新採用職員等消防団体験入団」制度の実施により, 消防団活動について, 体験することを通じて認識をすることができる機会ができたことによる。 ・消防団の装備について, 「消防団装備計画」に従って計画的に配備したため。	
82 80 78 76 74 72 70 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6			<b>問題点</b> ・消防団員の数の減少や高齢化が進んでいる。 ・消防団員の優遇制度, 学生の消防団活動認証制度を実施しているが, 消防団への入団につながっていない。	⇒	・時代背景等による全国的な傾向と同様である。 ・消防団員の優遇制度に, 入団を決定させる程度までのメリットがない。 ・学生の消防団活動認証制度による認証を就職活動に活用した際の実効性が明確でない。	
指標② 消防水利の充足率	%	↗	当初値 (H25) 97.8   R1目標値 98.3   R6目標値 98.8			★ 関係機関との協議を引き続き行い, 消防水利の充足率が低い準市街地の防火水槽の設置を進める。
			・充足率が上がっておらず, 成果が出ていない。	⇒	・特になし	
99 98 97 96 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6			<b>問題点</b> ・準市街地の防火水槽の設置が進まない。	⇒	・水利の整備について, 防火水槽設置場所の選定が困難なため。	
指標③ 救命講習の受講者数	人	→	当初値 (H25) 8,751   R1目標値 8,000   R6目標値 8,000			★ 町内会・自治会, 自主防災組織等に対する講習の実施を継続する。 ★ eラーニング講習のさらなる普及を図るため, 周知宣伝の実施を継続する。 ★ 避難訓練などの指導に併せ, 救命講習を行う(特に小・中学校及び高校)。
			・受講者数は前年度から減少しているが, 目標値は上回っている。	⇒	・町内会・自治会, 自主防災組織等に対する講習を今年度も継続的に実施したことによる。 ・eラーニング講習を普及させたことによる。	
12,000 10,000 8,000 6,000 4,000 2,000 0 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6			<b>問題点</b> ・特になし	⇒	・特になし	

実績値の推移				実績の評価													
指標④ バイスタンダーCPR実施率		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析												
当初値 (H25)	45.1	%	↗														
R1目標値	49.0																
R6目標値	49.0																
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (線グラフ)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>45.1</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>42.5</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>45.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>50.7</td> </tr> </tbody> </table>				年度	実績値 (%)	当初値 (H25)	45.1	H27	49.6	H28	42.5	H29	45.1	H30	50.7	・バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)によるCPR(心肺蘇生法)の実施率が上昇している。 ・特になし	・町内会・自治会、自主防災組織、中学校及び高校等に対する講習を今年度も継続的に実施したことによる。 ・eラーニング講習を普及させたことによる。 ・特になし
年度	実績値 (%)																
当初値 (H25)	45.1																
H27	49.6																
H28	42.5																
H29	45.1																
H30	50.7																
				問 題 点	問題の要因分析												

評価を踏まえた取組の方向性

★…R1年度着手済または着手予定  
☆…R2年度以降の着手を検討

★ 町内会・自治会、自主防災組織、中学校及び高校等に対する講習の実施を継続する。

★ eラーニング講習のさらなる普及を図るため、周知宣伝の実施を継続する。